

# 天神山ってどんなところ？

Q どうやってできたの？



A



今からおよそ4万年前、現在の支笏湖のところにあった「支笏火山」が大噴火をおこしました。その噴火による火砕流は石狩まで流れ、札幌は火砕流に厚くおおわれました。

その後、今からおよそ1万年前に氷河期が終わり暖かくなると、札幌の山々にも大量の雪が積もるようになり、それが溶けてたくさんの水が豊平川となって流れました。この川の水の力によって、長い年月の間に運ばれた土砂や削られた台地が残って、天神山ができました。

Q なぜ天神山っていうの？



A



天神山は、現在は「天神山緑地」という札幌市の公園のひとつですが、もともとは個人が所有する山でした。

明治36年(1903年)に、当時の所有者だった南部源蔵さんという方が、ふるさとの福岡県太宰府天満宮の神さまをうつして、平岸天満宮をたてました。天満宮の神さまは、広く「天神さま」として親しまれており、この神さまの名前をとっていつしか「天神山」と呼ばれるようになったと言われています。

# 天神山の歴史

年代	主なできごと
旧石器	【4万年前】 支笏火山の大噴火
縄文	【1万年前】 天神山の地形ができあがる 【8000年前】 人々が暮らしはじめる ★1
文化イ期又	【200年前】 チャシがつくられる ★2
明治	【明治 4年】 (1871年) 平岸村がひらかれる
	【明治 6年】 (1873年) 精進川から平岸街道までの用水路が完成する
	【明治 8年】 (1875年) リンゴの苗木が平岸に植えられる
	【明治17年】 (1884年) 本格的なリンゴ栽培がはじまる
大正	【明治36年】 (1903年) 平岸天満宮が建てられる
	【明治44年】 (1911年) アンパン道路が完成する
	【大正 7年】 (1918年) 定山溪鉄道が開通する
昭和	【昭和30年代】 (1955年～) リンゴ園が徐々に姿を消し始める
	【昭和36年】 (1961年) 用水路が埋め立てられる
	【昭和41年】 (1966年) 平岸林檎園記念歌碑が建てられる
	【昭和44年】 (1969年) 定山溪鉄道が廃止される
平成	【昭和46年】 (1971年) 地下鉄南北線が開通する
	【平成 2年】 (1990年) 日本庭園が完成する。平岸開基120年記念として、サクラが植樹される
	【平成 3年】 (1991年) 久保栄文学碑が建てられる
	【平成26年】 (2014年) さっぽろ天神山アートスタジオが開館する

## 1 縄文遺跡



昭和10年(1935年)、天神山の斜面から石器と縄文時代の土器が発見されました。これらは、約8千年前から古代の人々が天神山で暮らしをしていたことを証明するもので、約6千年にわたって人々が生活していたと言われています。

天神山緑地を中心とした周辺地域では、平成5年(1993年)から平成20年(2008年)の間に、発掘調査が3回行われています。



## 2 チャシ跡



チャシとは、アイヌ語で「砦」と呼ばれることが多いですが、もともとは「柵」「柵囲い」という意味であると言われています。

北海道内には500か所以上で発見されていますが、チャシのかたちは場所によってさまざまであり、いつごろできたのか、どのように使われていたのかなどについて、現在も専門家によって調査・研究が進められています。

天神山のチャシは、昭和6年(1931年)に発見され、江戸時代の文政年間頃(1818年～1829年)にできたものと言われています。戦いのためではなく、儀式や祭礼に使われていたのではないかと、という説もありますが、詳しいことは謎につつまれたままです。

